

団体名： 磐田国際交流協会



学び合い、
人とつながる
日本語教室

4 教室設置 各教室にコーディネーターを配置
日本語講師 26人 日本語ボランティア 22人



豊田教室

西貝教室



竜洋教室

ワークピア
教室



日本語ボランティア養成講座

対話活動勉強会

地域連携 防災日本語講座

- ①やさしい日本語を使った避難所運営ゲーム
- ②防災ファミリー運動会
- ③地域防災訓練への参加

多文化グローバル子育て教室

- ・コミュニケーション遊び
- ・子育て寸劇「こんなとき、どうする？」
- ・お弁当づくり、にこにこクッキング
- ・ことばと教育を考える
- ・ほげんだよりを読もう など

フォーラム 日本語教室成果発表
日本語スピーチ

日本語教育事業
【文化庁委託事業】

2007(H19)～2015(H27)

※2005年度(H17)～
任意で日本語教室を
実施していた

2005年度(H17)～
外国人児童の学習支援
(JSL サポート)

【磐田市教育委員会委託事業】

2014年(H26)～
いわた国際ナショナル
フォーラム

多文化共生事業

2006年度(H18)～
外国人情報窓口
【磐田市委託事業】

ホームステイ受け入れ
オーストラリア
ケアンズ、メルボルン

国際交流イベント



クリスマスパーティ



海外との交流



学生海外研修
オーストラリア
ケアンズ、メルボルン

広報活動

会報誌の発行
ホームページ
フェイスブック



地域連携

2005年度(H17)～
磐田市多文化共生社会推進協議会
2007年度(H19)～フェスティバル豊田出店
2015年度(H27)日本語対話体験プログラム
【一般企業委託事業】



2005年度(H17)～
世界の文化体験
講座



【設立】2005年(平成17年)3月14日(5市町村の国際交流協会が合併) 任意団体

【組織体制】会長1名 副会長2名 理事21名

【構成員】個人会員164, 家族会員56, 団体・法人会員12, 賛助会員2

【事務局】静岡県磐田市森岡150 TEL0538-37-4988 E-mail ice@iwataice.jp

【事務局体制】事務局長1名(非常勤), 事務局スタッフ5名(常勤2名, 非常勤3名)

日本語教育事業の概要

事業名	多様な連携の創出による日本語教育体制整備事業
地域課題	<p>磐田市の外国人の人口は、平成 26 年 12 月末現在 5,951 人で総人口の約 3.5%を占めている。国籍別内訳は、約 6 割がブラジルで 3,466 人、続いてフィリピン 900 人、中国 573 人となっている。日系人や日本人の配偶者とその家族、中国帰国者、技能実習生や企業内研修生など多国籍で多様な外国人が在住しているのが特徴。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室が地域の多文化共生の拠点として期待されるようになってきたため、更なる連携の広がりや活動の充実が求められている。 ・国籍別外国人数で 6 割を占めるブラジル人の日本語教室参加が少ない。 ・日本語が話せるようになって、日常生活で使う機会があまりない。日本語教室以外の地域住民と繋がることを意識した活動が必要。 ・外国人との接点がない住民がまだまだ多く、日本語教室の認知度が低い。
目指すこと	行政や社会福祉協議会、地域の交流センター、自治会、保育園、市民団体、一般市民等と連携・協力を図り、「生活者としての外国人」の多様なニーズに対応した日本語学習の場を提供するとともに、その実施プロセスを通して磐田における日本語教育の体制整備を推進する。
主な取組	<p>取組 1： 対話型→参加型の行動・体験中心の活動による日本語教育</p> <p>地域連携を意識した日本語教室を設置</p> <p>2007 年度（平成 19 年度）～2009 年度（平成 21 年度） 「地域密着型日本語教室」を 5 会場で実施。教室設置にあたり、地域の自治会役員や公民館（現交流センター）に日本語教室の趣旨を説明し理解を求める。</p> <p>2010 年度（平成 22 年度） 自治会役員や地元日本人住民等を招いて「感謝会」を開催し、学習成果の発表とゲーム等を通じた交流を行う。（今之浦教室）地区文化祭に初めて参加。（西貝教室）</p> <p>対話型の活動を導入</p> <p>2011 年度（平成 23 年度） 10 月今之浦教室にて対話型活動を試行。続いて、豊田教室でも対話型活動を導入。</p> <p>2012 年度（平成 24 年度） プログラム A 名称：生涯学習で実現する多文化共生のまち磐田日本語教育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西貝教室、竜洋教室でも対話型活動を開始。 ・指導者向けの対話型活動のための教材『にほんごでおしゃべりしよう！』を作成。日本語指導者に教材を配布。4 教室の活動内容がほぼ統一される。 ・対話型活動を基盤に行動・体験中心の活動を取り入れる。 「AED 講習」「防災啓発講座」「津波避難タワー見学」等。

参加型の行動・体験の活動により外国人をエンパワーメント

2013年度（平成25年度） プログラムA

名称：磐田日本語教育事業

- ・外国人参加者も共に企画・準備する参加型の行動・体験活動に取り組む。
- ・指導者向けに、行動体験のための教材『街にでよう！人と出会おう！』を作成。
- ・NPO法人国際活動市民中心（GINGA）が開発した「多文化社会型居場所感アンケート調査」を実施。対話型活動と行動・体験活動が居場所感・役割感を高めていると考えられる結果となる。

多様な連携により外国人の地域社会参加を目指す

2014年度（平成26年度） プログラムB

名称：多様な連携による地域密着型日本語教室

主な連携事業【連携先】：地区文化祭への参加【公民館・文化祭実行委員会】、ふれあい広場への参加【社会福祉協議会】、緊急電話【消防指令センター】、救急救命【消防署】等

2015年度（平成27年度） プログラムB

名称：学び合い、人とつながる日本語教室

目的：①生活に必要な日本語の習得。

②地域社会で生き生きと生活できるように、人間関係を築くための日本語コミュニケーション力を養成し、地域社会への参加につなげる。

③行動・体験中心の活動を通じ、地域の日本人住民が、外国人と交流することで異文化に対する理解を深め、多文化共生のまちづくりに貢献する。

内容：市内4教室で一年を通して実施。対話を中心とした活動や、行動・体験を中心とした活動を取り入れ、地域連携を通じて学習者をエンパワーメントし、地域社会への参加に繋がる日本語教育を実施する。

主な連携事業【連携先】：クリーンセンター見学【行政】、地区文化祭への参加【交流センター・文化祭実行委員会】、ふれあい広場への参加【社会福祉協議会】、いわた大祭り大名行列への参加【いわた大祭り実行委員会】、学習者が講師になる外国料理教室【地域の日本人住民】等

取組1の成果

日本語教室以外の地域の日本人と交流することで、生きた日本語会話を実践することができている。特に、行動・体験を中心とした活動では、外国人参加者も一緒になって企画・準備・実施運営を行うため、役割感を持って日本語教室に参加することができている。また、連携事業を通じて、地域に外国人が暮らしていることや日本語教室があることを地域住民に知ってもらい、外国人と交流することで多文化への理解が深まった。

取組 2： 人材育成

2009年度（平成21年度）

研修会「地域における日本語習得を考える」

- ・自治会役員3名参加
- ・対話型活動を初めて紹介

2010年度（平成22年度）

養成講座「おしゃべり型活動のための素材集『にほんごこれだけ1』の理念と使い方」

対話型活動の楽しさと有効性を実感

2011年度（平成23年度）

養成講座「とよた日本語学習支援システムから学ぶ，対話を通じた地域日本語学習支援」

対話型活動の理論と具体的な活動方法を学ぶ

「日本語教室ボランティア説明会」

- ①多文化共生の拠点としての日本語教室とボランティアの役割，②ワークショップ「対話型クラスの実践」

- ・対話型活動のための人材養成
- ・説明会の準備を通じて，指導者の対話型活動に対する理解が促進された

2012年度（平成24年度）

養成講座「やってみよう！日本語ボランティア—教えるから一緒に活動するへ—」静岡県国際交流協会合同開催

日本語教育の人材の裾野を広げ，対話型活動の進行役を養成する

2013年度（平成25年度）

養成講座「日本語教室で多文化を楽しもう！—人と繋がる日本語教室をめざして—」

前年度作成した対話活動のための教材を養成講座で活用

2014年度（平成26年度）

「対話活動のための日本語ボランティア養成講座」

「対話活動のための勉強会」

対話型活動をベースに参加型の行動・体験活動について学ぶ

2015年度（平成27年度）

「学び合い，人とつながる日本語活動を支える日本語ボランティア養成講座」

「対話活動のための勉強会『PDCAを身につけよう！』」

- ・多様なニーズへの対応
- ・活動の計画→実行→評価→改善の手法を身につける

取組 2 の成果

- ・指導者が対話型活動の意義を理解し，それぞれ工夫して教室活動の中に取り入れた。
- ・対話型活動の進行役や補助者を養成したことで，外国人の社会参加に繋がる日本語教育を実践できるようになった。
- ・養成講座等を通じて対話型活動や行動・体験の活動を学んできた教室指導者が，日本語教室での実践経験を基に，昨年度から，養成講座や対話活動のための勉強会で講師を担当している。

取組 3： 体制整備に向けた連携・ネットワークづくり 2014年度（平成26年度）

「防災講座」※「豊田地区多文化共生に向けた自治会長情報交換会」との合同開催

目的：外国人と自治会役員が顔の見える関係を築き，防災訓練への参加を促進する。

連携先：NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会，自治会連合会豊田支部，磐田市

対象：外国人 25 人，日本人 75 人（内自治会豊田支部役員 46 人）

内容：1. 講話「国籍を越えて助け合う地域づくり～東日本大震災の経験から考える～」講師 NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会事務局長 時光氏
2. ワークショップ ①グループ内自己紹介，②対話活動「災害時に心配なこと」，「外国人に協力してほしいこと」，「外国人が協力できること」

成果：外国人学習者は，緊張しながらも一生懸命日本語で伝えようとし，日本語ボランティアは自治会役員と外国人との仲介役となった。初めて外国人と話をするという自治会長も多く，互いに貴重な経験となった。

地域防災訓練「富岡西地区避難所運営訓練」への参加

目的：防災に対する意識を高め，地元の防災訓練への参加に繋げる。地域防災訓練の外国人受け入れ態勢を考える機会とする。

連携先：自治会連合会豊田支部富岡西地区，磐田市

対象：外国人 25 人，日本語ボランティア 10 人

内容：豊田北部小運動場の「外国人市民集合場所」に整列。参加人数報告。外国人代表あいさつ。班に分かれてそれぞれ訓練活動に参加（放水訓練，可搬ポンプ，濾水機の講習，バケツリレー，炊き出し，AED 講習，非常時持ち出し品の展示）各班に一人ずつ地区の役員がついて説明。

成果：在日年数が長い外国人でも，初めて訓練に参加したという人が多く「とてもいい経験ができた。友達にも伝えたい」との感想が聞かれた。説明者を配置したり看板等を翻訳する等，外国人を受け入れるための準備をしてもらえた。

多文化グローバル子育て教室

目的：子どもをまん中にして，保育園と外国人・日本人保護者との協力・連携を推進する。磐田市こども部幼稚園保育園課と磐田市教育委員会学校教育課の協力を得る。外国人が集住する地域にある保育園で実施することにより，当該地区の自治会や公民館，多文化交流センター，近隣の幼稚園との連携を図る。

連携先：社会福祉法人聖隷福祉事業団こうのとりの東保育園，NPO 法人浜松 NPO ネットワークセンター，（有）浜松こどものとも社

対象：外国人 26 人，日本人 19 人

内容：座談会「子どものこと」，寸劇で演じる「子どもへの声掛け，子どもとの関わり方」，「ブラジルの踊りと日本のわらべ唄」，日本の学校紹介「計算カードをやってみよう！」「なわとびで遊ぼう！」「給食」，お弁当づくり，母語の話と教育制度・教育資金，メディアから離れたコミュニケーション遊び，料理教室，日本語とポルトガル語による読み聞かせ，DVD 鑑賞『キャリアガイド DVD 深めよう 絆 確かな未来をつくるために』（三重県製作）※全 8 回。

成果：・保育園と連携したことにより，子育てに関する専門性と日本語対話活動のノウハウの両方を合わせ，毎回，魅力的なプログラムを作ることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てという共通のテーマを通じて外国人・日本人の交流が促進され、講座終了時のアンケートからは、普段の生活においてもお互いに対する意識が変わったことが見て取れた。 ・開催するにあたり、子育て関係機関、当該地区の多文化共生に関わる施設・団体等多くの機関をまわり、開催趣旨を説明したことにより、参加者の募集や子育ての先輩としての補助者、託児等、協力体制を構築することができた。 <p>いわたインターナショナルフォーラム 2015 への参加</p> <p>目的：広く一般市民へ日本語教室の活動を周知し、地域日本語教育体制を強化する。 内容：①日本語スピーチ、②日本語教室紹介・学習者の出身国紹介パネル展示、③学習者による「外国語で書くあなたの名前」体験コーナー 成果：日本語スピーチは発表者のエンパワーメントに繋がっただけでなく、外国人と外国人が日本語を学ぶことに対する聴講者の理解を深めることができた。パネルの作成や体験コーナーで外国人学習者が意欲的に関わることができた。</p> <p>取組 4： アドボカシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磐田市多文化共生社会推進協議会における日本語教育事業の紹介・協議。 ・自治会連合会豊田支部多文化共生に向けた自治会長情報交換会における磐田国際交流協会の多文化共生事業の説明。
<p>地域の変化</p>	<p>連携事業を通じて、日本語教室が多文化共生社会を推進する上で重要な役割を担うと共通認識されるようになってきた。特に自治会連合会と連携して実施している防災関係事業での期待が大きい。多文化グローバル子育て教室事業では、多文化交流センターとの連携の深まりや、カトリック磐田教会との新たな連携の広がりが見えつつある。</p>
<p>今年度の取組</p>	<p>地域連携防災日本語講座</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. やさしい日本語を使った避難所運営ゲーム HUG 体験の実施【主な連携先：静岡県西部危機管理局、自治会豊田支部】 2. 防災ファミリー運動会への参加【主な連携先：いわた減災ネットワーク連絡会】 3. 地域防災訓練への参加【主な連携先：自治会豊田支部富岡地区】 <p>多文化グローバル子育て教室 2015</p> <p>1回の活動時間を1時間から1時間半に伸ばし、ゆったりと話し合えるように工夫。また、「ほけんだより」を読むなど日本語習得にも力を入れる。</p> <p>いわたインターナショナルフォーラム 2016 への参加</p> <p>昨年と同様の成果発表、交流企画に加え、多文化グローバル子育て教室の参加者による発信型の活動紹介をしたいと考えている。</p>
<p>皆さんへ一言</p>	<p>外国人も自分らしく生きることが出来る環境を、皆さんと一緒に作っていただけると嬉しいです。</p>